

プログラミング 小中生発想競う

全道大会

【木古内】小中学生が対象の「北海道プログラミングコンテスト」が11日、渡島管内木古内町の町中央公民館で開幕した。木古内や札幌、釧路などの小学生21人がゲームやクイズなど多彩な作品を披露した。

函館や札幌の教育関係者でつくる実行委が主催。スクラッチというプログラミング言語を使った作品を募集し、小学低学年、小学高学年、中学の3部門に約100作品の応募があった。1次審査を通過した25作品が最終審査に臨んだ。

北海道プログラミングコンテストで、自身の作品を紹介する三浦彩乃さん



出場者は5分間の持ち時間で作品に込めた思いを説明し、発想力や表現力などを競った。小学高学年の部では、自動体外式除細動器（AED）の設置場所を紹介するアプリを考えた函館市立大森浜小4年の三浦彩乃さん（10）が最優秀賞に選

ばれた。三浦さんは「ニュースを見て、人の命を救うことができるアプリを作ろうと思った。うれしい」と喜んだ。来年3月の全国大会（東京）へ出場する。

同低学年の部は札幌市立北九条小1年の三島晶さんが最優秀賞に選ばれた。最終日の12日は、中学の部の審査が行われる。

（金勝広）